

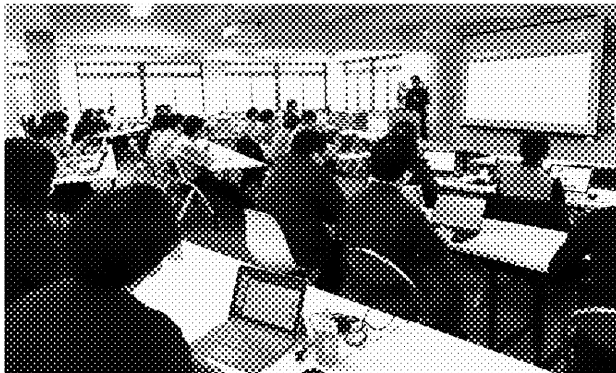
# 生成AI、全社業務活用

## 日本シーム、設計・営業にも

【さいたま】日本シーム（埼玉県川口市、福田理也社長）は、生成人工知能（AI）を全社で活用する。MAKOTO Prime（仙台市若葉区、竹井智宏社長）が販売する中小企業向けの生成AIツール「カルクワークス」を導入して、事務作業の効率化だけでなく設計や営業、製造現場、経営の意思決定などで幅広く活用する。日本シームの木口達也会長は「生成AIを使って将来予測や広い視野での経営、的確な情報の抽出につなげたい」と強調する。

## 中小向けツール導入

日本シームはプラス E.T.ボトルなどのプラスチックリサイクル関連 スチックを再生材料に機器の開発設計・製造 転換するための粉砕、販売を手がける。P 洗浄、脱水、乾燥機を



総合的に扱い、一連の年1月に全社員を対象処理ラインも提供する。2023年10月と24 GPT)の研修を実施した。東北大学特任准教授も勤めるMAKOTO Primeの竹井社長を講師に招き、導入に向けた準備を進め、全社員のアンケート結果

日本シームのChat GPT研修で採用を決めた。導入するカルクワークスは23年12月にMAKOTO PrimeがKandaQuantum（東京都千代田区）から事業買収した。プロンプト（指示文）の学習が不要で、ビジネスに必要な14種類のAIアプリケーションを包括的に提供して企業の業務効率化や生産性向上に役立つ。日本シームではカルクワークスの「メール返信AI」「文章校正チェックAI」などを事務部門で活用するとともに「SNS投稿作成AI」「適切表現・炎上チェックAI」を使って外部への情報発信を拡充する。「お悩み解決」「課題解決」「意思決定」などのサポートAIも使って生成AIの活用を全社で推進する。